

保育者の保育における歌の捉え方から 子どもの歌の展望を考える

— コロナ禍における保育者へのアンケートから —

岩淵 摂子・佐藤万利子・松村万里子
(保育学科)

1. はじめに

2017年に幼稚園教育要領及び保育所保育指針が改訂され、2018年に施行された。幼稚園教育要領では領域「表現」の内容において、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」(p.21)とあり、保育所保育指針では「乳児保育に関わるねらい及び内容」に「～歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。」(p.36)、1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」では「歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする」(p.41)、3歳以上児のねらい及び内容では、幼稚園教育の領域「表現」と同様に歌について言及されており、保育において歌うことは欠かせない大切な活動である。改訂前の保育所保育指針では、領域「表現」の内容には「保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。」とある。この「保育士等と一緒に」が2017年の改訂後はなくなっているが、保育の中でCD等のメディアを使用して歌を歌う場合を考慮しての記述であると考える。

歌を歌うことは、言葉を豊かにすることにもつながる。『幼稚園教育要領解説』の領域「言葉」の内容の取扱いには、「幼児期の発達を踏まえて、言葉遊びを楽しむことも、いろいろな言葉に親しむ機会となる。例えば、リズムミカルな節回しの手遊びや童謡を歌うこと

は、体でリズムを感じながらいろいろな言葉を使って表現する楽しさにつながる。」(p.229)とある。

昨年度の論文「保育の中の歌について—子どもの歌についてのアンケートから—」では、保育者及び保育者養成校の学生に、同じ対象曲を用いて行ったアンケートをもとに、保育者養成における子どもの歌の指導について示唆を得ることを目的として分析・考察を行った。

結果として、保育現場では明治から平成までの幅広い時代に発表された数多くの曲が歌われており、新しい歌や子どもたち自身が歌いたい歌も取り入れられていることが分かった。また、「どこで歌を知ったか」について、学生の回答で一番多かったものは「幼稚園・保育園(所)で」が31.5%であり、学生は自身が幼稚園・保育園(所)で歌った歌をよく覚えていることが分かった。一方で「家族と歌った」の割合は13.9%であり、保育者と共に歌を歌う経験が大切であることが読み取れた。

保育者対象の同アンケートでは、コロナ禍の中での保育現場において歌を歌う活動の現状と、保育者自身の保育における歌に対する考えについて、自由記述で回答を得ていた。本稿では、この自由記述回答に寄せられた保育者の子ども歌に対する思いを形にし、今後の子どもの歌の展望を考えたい。

2020年12月10日の文部科学省の通知「小

学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」では、合唱を行う場合はマスクを原則着用すること、間隔をできるだけ2m（最低1m）空け、連続した練習時間はできるだけ短くし、常時換気を原則とし、窓等を対角方向に開け、十分に換気を行うなどの対策を講じた上で行うことが示された。

一方、2022年9月7日に厚生労働省の通達により療養期間の見直しが行われ（「新型コロナウイルス感染症の患者に対する療養期間等の見直しについて」）、同年12月27日には新型コロナウイルスの感染症法上の分類見直しを巡り、政府が2023年春にも季節性インフルエンザと同等の5類への引き下げを検討していると報道された。

今後コロナ禍が一定の収束を見た後も、保育現場ではコロナ以前と同様に歌う活動を行うことができるだろうか。子どもの豊かな表現を培うには、保育者自身が子どもの歌をどう捉えているのかがますます重要になってくる。また、その捉え方は、経験年数の少ない保育者と、そうでない保育者では違いがあるのかについても、アンケートの分析から考察したい。

2. 研究の目的

コロナ禍の中で保育現場ではどのように歌う活動を行っているのか、保育者は子どもの歌についてどう捉えているのかについて、自由記述の分析を行う。また、経験年数によって保育における歌に対する考えに違いが認められるのかを自由記述から考察し、それを踏まえて今後の保育における歌の展望について考えたい。

3. 研究方法

(1) アンケート対象者について

アンケート対象者は、宮城県・秋田県・山形県・福島県在住の、幼稚園・保育園（保育所）・認定こども園へ勤める現役保育者及び保育の経験があるもの（退職者）とした。

(2) 倫理的配慮

本調査にあたり、調査目的と内容について説明し、回答は研究にのみ使用し、それ以外の目的で使用しないこと、参加は個人の意思に基づくことを明記した。

(3) アンケートの分析方法

自由記述の設問は、①コロナ禍の中で歌を歌う活動について困ったことや工夫していること、②子どもの歌に対する考えについて、の2つである。①、②の回答について、KH Coderを用いてテキストマイニングを行った。

また②については、回答した保育者のうち最も経験年数が少ない3年未満の保育者の自由記述を取り上げて考察を試みた。これらの回答者には、コロナ後の現場しか経験していない経験年数2年未満の保育者が5名含まれる。

4. 結果および考察

(1) 回答者について

質問紙を郵送にて配布・回収する形で行った。2021年9月1日付で発送し、9月6日～11月17日に回収した。回収率は約55%（133通中73通回収）であった。そのうち自由記述の設問に回答があったもの（有効回答数）は64であった。

回答者の所属は、表1の通りである。

回答者の性別は、女性61名、男性3名であった。

回答者の保育者としての経験年数について

表1 回答者の所属

種類	回答数	(%)
幼稚園	26	(40.6%)
保育園・保育所	26	(40.6%)
認定こども園	5	(7.8%)
退職	7	(11%)
計	64	

表2 経験年数

経験年数	計
3年未満	12
3年以上 5年未満	8
5年以上 10年未満	9
10年以上 15年未満	3
15年以上 20年未満	4
20年以上 25年未満	9
25年以上 30年未満	6
30年以上	13
計	64

表2に示す。経験年数が3年未満と回答したのは64人中12名であった。

(2) コロナ禍における歌を歌う活動について「コロナ禍の中で歌を歌う活動について困ったことや工夫していること」の自由記述についてテキストマイニングを行った。総抽出語数は2,766語で、分析に使用される語として1,097語が抽出された。これらのうち頻出語を回数が多い順に表3に示した。頻出語の関連性を分析して視覚的に示した共起ネットワークは図1のようになった。12個のサブグラフが出現した。

図1の01のグループには出現頻度の最も多い「歌う」をはじめ、「マスク」「子ども達」「歌」「着用」「口」「開ける」「表情」「伝わる」「大きい」「声」が含まれる。これらの語が含まれる記述を確認すると以下のようなものがあった。

表3 「コロナ禍の中で工夫していること、困ったこと」頻出語

頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数
歌う	77	伝える	11	歌詞	7	知る	6
マスク	46	距離	10	開ける	7	伝わる	6
子ども	35	思う	10	同士	7	楽しい	5
歌	22	声	10	難しい	7	減る	5
口	17	コロナ	9	飛沫	7	制限	5
着用	16	方向	9	感染	6	大きい	5
向く	13	クラス	8	換気	6	大切	5
保育者	13	同じ	8	見えない	6	保育	5
間隔	12	表情	8	工夫	6		

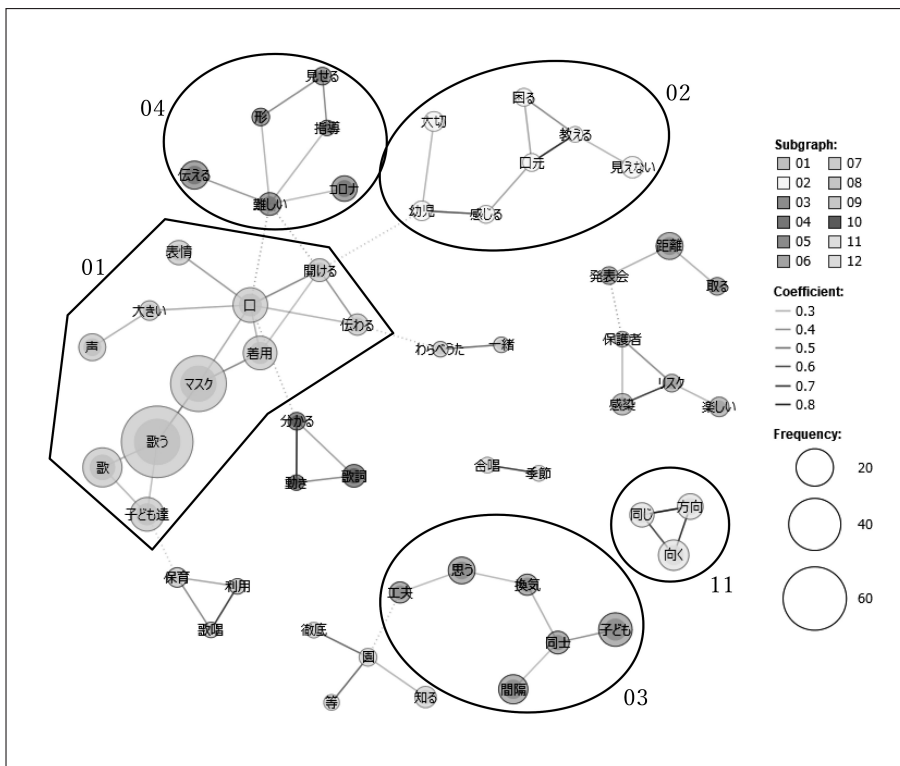


図1 「コロナ禍の中で工夫していること、困ったこと」共起ネットワーク

- ・マスク着用の為、歌詞や歌い方を伝えるのが難しい。口の開け方が伝わりにくい。
- ・表情、口の開け方が伝わらないことに困っていますが、目から上を全力で笑うようにしています。先生が楽しく歌うことが一番です！
- ・子ども達がマスクをしているため、歌っているかいないか分かりにくい。マスクをしているため教師の口の動きや形が伝わりにくい。歌のイメージや歌詞を覚えられるよう、手袋シアター等で一度見せている（歌の導入として）。
- ・マスクを着用している為、口を大きく開ける事等が伝わりづらいことがあるので、必要に応じて保育者がマスクを外し、声を出さず、口の開け方を知らせています。

02のグループには「口元」「教える」「困る」「見えない」「感じる」「幼児」「大切」が含まれる。「口元」に着目すると以下のような記述が見られる。

- ・子どもの口元が見えない、言葉がはっきり聴き取れない（教師も子どもも）など歌を教えるのも歌うのもやりづらくて困っている。
- ・文字の理解に差があるため、口元が見えない中で歌詞を教えるのに困っている。読める子には歌詞カード、読めない子にはイラストで歌詞を伝えてみた。
- ・子ども達と新しい歌をうたう時は特に、保育者の口元を子ども達はじっと見るので、伝えにくい。

これらの記述から保育者は、マスクによって歌う時の保育者の口の開け方を子どもに示すことができず、子どもの口元も見えないため、歌い方や歌詞、表情を伝えるにいと感じているようだ。

03の「子ども」「同士」「間隔」「換気」「思う」「工夫」、また11の「同じ」「方向」「向く」も強い共起性が見られる。コロナ禍の中でも歌うことのために、「子ども同士が間隔をあけて、同じ方向を向き、換気しながら歌う」ことを多くの保育者が行っていることが読み取れる。

04のグループの「難しい」「伝える」「コロナ」「形」「見せる」「指導」のつながりからも、保育者が指導すること、伝えることが難しいと考えていることが分かる。対策として、保育者はペープサートや手袋シアター等の児童文化財を用いたり、表情や歌い方を分かりやすくしたり、時には声を出さずにマスクを外して口の開け方を知らせる等の工夫を行っていることが分かった。

また、頻出語の「減る」に着目し、「減らす」も含めてこれらが含まれる記述、まったく歌わないという記述を見てみると、以下のものが見られた。

- ・園全体のつながりを大切にしているので、乳児クラスと幼児クラスと一緒に歌うことが減ったと感じる。
- ・コロナ前は季節の歌を歌っていたようですが、コロナが流行してからは歌わなくなった。歌も最小限（朝、昼、帰りの歌のみ）にしている。外部講師が行う音楽教室では、歌うことを減らし、リトミックやリズム遊び中心に行っている。
- ・預かり保育では不特定多数の子ども達が利用している為、歌唱の一切を禁止しています。歌うことが全面的に出来なくなり、も

どかしい日々を送っています。

コロナ禍の感染防止対策のため歌うことをかなり制限している園もあることが分かった。利用する子どもが毎日のように変わる預かり保育ではまったく歌を歌っていない状況も報告されたが、保育者はその現状を「もどかしい」と表現していた。

(3) 保育における歌についての保育者の捉え方

「保育における歌についての考え」の自由記述のテキストマイニングを行った。総抽出語数は2,858語、分析に使用される語として1,086語が抽出された。頻出語を表4に、共起ネットワークを図2に示す。

出現回数が上位6位までの語「歌」「子ども」「歌う」「思う」「楽しい」「保育」が含まれるサブグラフ08を見ると、保育における歌について多くの保育者が考えていることが読み取れる。「歌」「歌う」に着目すると、以下の記述があった。

- ・友達と心を合わせて歌う楽しさを、たくさんの歌をとおして味わってほしいし、詞が大人になっても心に残ると思うので、いろいろな情景、心情が浮かぶ、伝わる歌をうたいたいです。
- ・歌を通して季節（行事）を感じられたり、歌に出てくる風景や生き物、自然、物語等のイメージや想像を膨らませる素敵なもの。皆でうたうことで楽しさを感じ、息を合わせたり、周りの声を聞いたりする中で協調性を身につけられるものだと思う。
- ・歌を口ずさむことで気持ちが穏やかになったり楽しくなったり、いつでも歌うことができる環境を作っておくことが大切と思っています。

表4 「保育における歌についての保育者の考え」 頻出語

頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数
歌	58	多い	10	考える	7	一緒	5
子ども	42	音楽	9	自分	7	歌詞	5
歌う	40	合わせる	9	心	7	楽しむ	5
思う	38	取り入れる	9	聞く	7	気持ち	5
感じる	16	触れる	9	言葉	6	好き	5
楽しい	15	口ずさむ	8	豊か	6	知る	5
大切	11	声	8	コミュニケーション	5	伝える	5
保育	11	童謡	8	コロナ	5	表現	5
音	10	たくさん	7	ピアノ	5	友達	5
覚える	10						

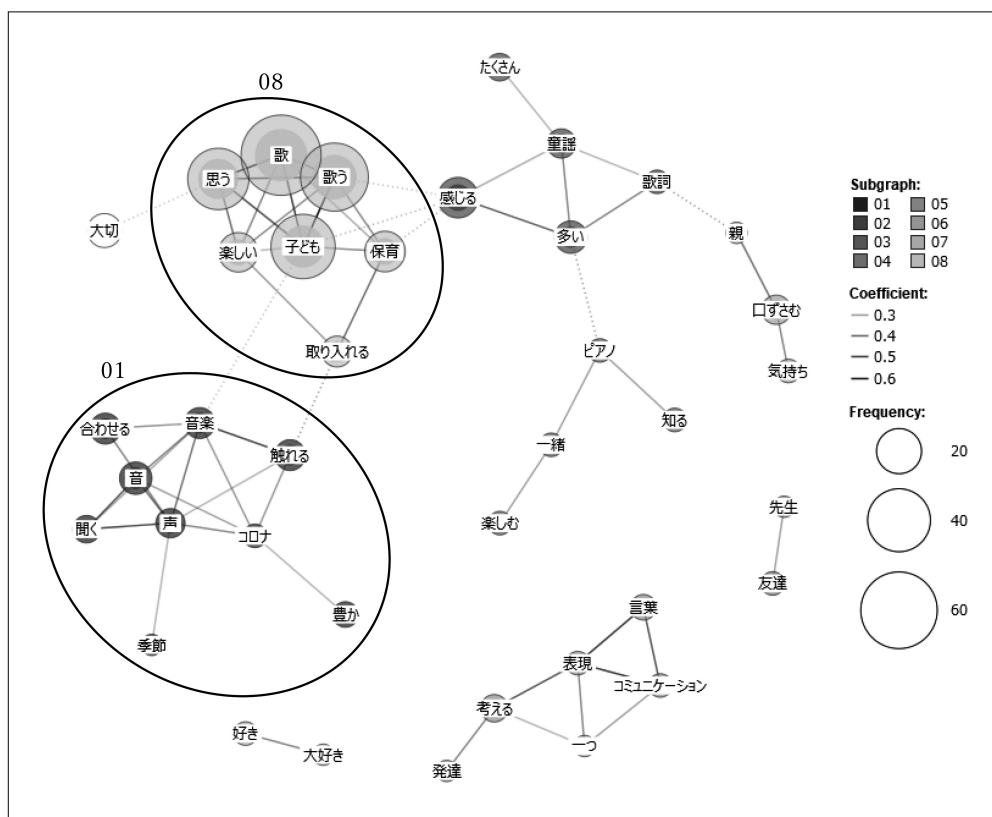


図2 「保育における歌についての考え」 共起ネットワーク

- ・担任をしている頃は、毎朝子ども達と2曲歌うことを保育に取り入れ、歌う楽しさ、心地よさを感じられるようにしていました。赤ちゃんが泣いた時も、つい童謡を口ずさんでいます。

語の結びつきが強く示されている01のサブグラフには、「音」「声」「聞く」「音楽」「合わせる」「触れる」「コロナ」そして「豊か」「季節」が見られる。ここから「音」に着目すると以下の記述が見られた。

- ・コロナ禍になり、子ども達が無意識に触れている音楽の重要性に気づきました。聞いた音を声に出して歌う経験の薄れた子ども達は音を拾う力が弱くなっています。
- ・CDなど機械を通した音ではなく、生の声、音で子どものテンポや様子に合わせてあげられるようにしたい、と思っています。

ここではCD等のメディアを通した音ではなく、子どもたちが自身の声で歌うこと、また保育者自身の声で歌う重要性が指摘されている。「声」に着目すると同様の意見が見られた。

- ・肉声での歌は、その一人一人の声や発声や抑揚があり、心地よく、情緒の安定や豊かな感性を育むために保育の中では必要不可欠です。また、人と合わせて歌う合唱も、コミュニケーション力や達成感を育み人を感動させることができます。
- ・歌は情緒を育み、気持ちを豊かにするうえで必要だと思います。どの年齢の保育にも大切な分野と考えています。ピアノ、オルガンなどの伴奏のもと歌う時間は、子ども達も大好きです。デジタルではない、生の歌声にふれる時間は豊かな人格形成に必要で

あると信じています。

5回出現している「コミュニケーション」に注目し、同様の意味で使われていると考えられる「会話」も含めると以下の記述があった。

- ・園生活の中でより多くの歌を知ってほしい。歌を通して様々な言葉、表現を覚え、コミュニケーションの一部になってほしい。
- ・歌は、赤ちゃんの時から会話だと考えます。子守り歌は、赤ちゃんの時からきいて身にしみつき覚えて声を出して歌っています。3, 4, 5歳くらいには、だんだんと長い歌詞を覚えていくという発達に沿って楽しみ方も加わっていくという目的もあると思います。
- ・歌は、生活面、あそび面…どんな場面においても欠かせない存在だと思います。(中略)特に小さい子は、言葉ではわかりづらいことも歌で表現したり、わらべうたに関しても、コミュニケーションを図れる手段の一つとも考えています。

歌は保育の中のあらゆる場面において欠かせないもので、子どもの感性を豊かに育み、情緒を安定させ協調性を身につけると同時に、言葉の発達を促すことにも関わっている。歌は「会話」だとする記述もあるように、子どもにとって「歌うこと」は自己表現であり、他者とのコミュニケーションの一つと捉えられていること、数多くの歌を子どもたちと歌いたいと考えていることが分かった。

(3) 経験年数3年未満の保育者の子どもの歌に対する思い

経験の浅い保育者は、子どもの歌について

どのように捉えているのだろうか。経験年数が3年未満と回答した保育者の記述について見てみると、歌によって子ども同士、保育者とのつながりが深まり、歌うことは自己表現の大きな手段の一つと捉えていることが分かった。

- ・「歌うこと」は自己表現の大きな一つと考えています。歌うことで感情を豊かにする、歌うことで感情を表現する、それができることは子どもにとって大きな自信に繋がると信じています。
- ・(ピアノが苦手でも) 子どもたちと一緒に歌うことは大切だと思っている。コミュニケーションの一つ、特に年少さんは初めての歌が多かったりするので一緒に教師や友達と歌うことで自然と打ち解ける。
- ・歌を通して、子どもなりに感じるものや、学ぶものが広がったり、笑顔が広がったり、友達や先生との交流が深まるきっかけになったり、歌を通して良い効果につながる事が沢山あると思うので、沢山の歌に触れさせていきたいと思っています。

一方で、12名のうちコロナ禍になってから就職した(経験が2年未満)保育者5名に絞ってみると、この設問に対する記述があったのは2名のみであった。コロナ以降の経験しかないことから、子どもの歌に対する自身の考えをまとめることができなかったかもしれないと推察される。

5. 総合考察

本研究は、保育者に子どもの歌についてのアンケート調査を行い、コロナ禍の中で保育現場での歌を歌う活動の現状と、保育者は子どもの歌についてどう捉えているのかをアンケートの自由記述の分析から明らかにし、そ

れを踏まえて今後の保育における歌の展望について考察することであった。

子どもが歌うこと、保育者が歌って聴かせることの大切さを、保育者は毎日の保育の中から肌で感じており、コロナ禍でも多くの保育者が、様々な対策を行った上で歌う活動を途切らすことなく続けていることが分かった。現状では歌うことがかなり制限されている場合でも、保育者はそれを「もどかしい」と考えていることから、コロナ禍が落ち着きを見せた後、保育の現場では以前のように歌う活動ができるのだろうかとの危惧は、杞憂に終わるものと考えられる。

コロナ禍になってから就職した経験が2年未満の保育者では、子どもの歌についての考えを言葉としてまとめられたものは少なかったが、同僚である先輩保育者の姿から学び、様々な場面において、保育者自身も子どもたちと歌うことを楽しんでもらいたいと考える。そのことが、子どもの豊かな表現、更には言葉、人間関係など五領域の総合的な発達に大きく関わるということを、アンケートの自由記述から再確認することができた。

最後に保育者の子どもの歌についての考えの自由記述例を紹介し、アンケートにご協力くださった保育者の皆様に感謝の気持ちを伝えたい。

- ・歌によって安心できたり、勇気をもらったり、励まされたり、やる気になったり・・・心の奥底に気が付かない間に残り、生きていく上での支えや心の栄養となってくれる力も持っていると思う。
- ・今は0歳児クラスなので毎日ずっと歌をうたっています。歌は、子どもの気持ちを切りかえてくれたり、和ませてくれたり、楽しませてくれたり、、そして何の準備もなくすぐに取り組める素敵なものだと思います。

す。

- ・保育士の歌を聞いて泣いている子が泣き止んだり、保育士と子ども達が一緒に歌うことで笑顔になったり、保育の中で歌は欠かせないものだと思います。

【引用・参考文献】

- 文部科学省（2017）幼稚園教育要領. チャイルド社.
- 厚生労働省（2017）保育所保育指針. チャイルド社.
- 文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説. フレーベル館.
- 厚生労働省（2018）保育所保育指針解説. フレーベル館.
- 岩淵摂子・佐藤万利子・松村万里子・四家昌博（2022）保育の中の歌について－子どもの歌についてのアンケートから－. 聖和学園短期大学紀要, 59, 161-175.
- 文部科学省（2020.12.10）小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について（通知）.
https://www.mext.go.jp/content/20201210-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf
（2022.12.30 閲覧）
- 厚生労働省（2022.9.7）新型コロナウイルス感染症の患者に対する療養期間等の見直しについて（事務連絡）.
<https://www.mhlw.go.jp/content/000987473.pdf>
（2022.12.30 閲覧）
- TBS NEWS DIG（2022.12.27）新型コロナ「5類」への引き下げ来年春にも検討 政府.
<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/255622?display=1>
（2022.12.30 閲覧）
- 樋口耕一（2020）社会調査のための計量テキスト分析 第2版 内容分析の継承と発展を目指して. ナカニシヤ出版.
- 牛澤賢二（2021）やってみようテキストマイニング 増訂版－自由回答アンケートの分析に挑戦！－. 朝倉書店.